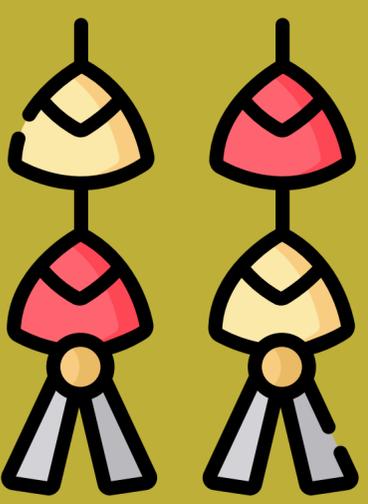


端午節は旧暦の五月五日に行われる、中国の全国的で大規模な祝日の一つです。その最も有名な行事は、ちまきを作ることと龍舟競漕（ドラゴンボート）です。両方も、「屈原（くつげん）」という人に関係があります。

屈原



屈原は春秋戦国時代の大詩人であり、中国では「愛国志士」とも呼ばれています。春秋戦国時代は日本の弥生時代の始まりと同じ時期です。その時期の中国は七つの国に分かれていて、屈原は楚（そ）の国の詩人であり、貴族で、政治家でもありました。

春秋戦国時代の終わりに、始皇帝が統率した秦の国は、十年をかけて他の六つの国を吸収し、新たな「秦の時代」を拓きました。楚は無論、秦との争いで負けて、秦の一部になりました。そのことを知った屈原は絶望し、旧暦の五月五日に石を抱いて、汨羅江（べきらこう）に身を投げました。人々は屈原の愛国心に感動し、屈原を記念するために、旧暦の五月五日を「端午節」と設定しました。屈原が作った「離騷（りそう）」は最も偉大な楚辞（そじ、楚の国で書かれた詩）で、愛国の気持ちを伝える詩として中国の人々に何千年も影響を与えています。



端午節と屈原



中国の文化で、死後、体を破壊するのはとても不敬なことです。屈原が身を汨羅江に投げた後、人々は「こんな偉大な方の身体を湖の中の魚に食べられるのはいけません」と考え、ちまきを作り、湖に沈めました。こうして、魚たちはちまきを食べて、屈原は体を保つことができました。ちまきは、もち米を笹の葉に包み、いろんな具材を入れ、茹でて食べるものです。中国の北部はよく甘い具材を入れる傾向があり、餡子や棗を使います。南部は肉を入れる傾向があり、よく豚バラやハムなどを入れます。

ちまき



国際交流員が紹介する
「一！一！一！三！楽しい中国文化」
中国の四大祝日③



龍舟競漕



屈原が身を投げた後、人々は屈原の遺体を探すため、汨羅江に舟を出して数日間探したという伝説があります。現代になり、この活動は「龍舟競漕」になりました。龍舟の大きさ、形、競漕のルールは地域によって違いがありますが、「龍」を飾るのが定番です。



端午節 と屈原



実は、龍舟競漕とちまきの記録は屈原の時期より遙か昔にありました。端午節は歴史が古すぎるため、その由来を特定することは、もはやできません。現代になり、「端午節」と聞いて人々がまず「屈原」を思い出すのは、屈原の精神が中国の人々に感動を与えたためです。

国際交流員が紹介する

「一！二！三！楽しい中国文化」
中国の四大祝日③